



市が孤立した場合の対応策について 御所浦恐竜の島博物館について 災害防除事業計画について

浜崎 昭臣 (政友会)



【天草市が孤立した場合の 対応策について】

問 天草五橋が1つでも崩壊すると本市は離島になる。代替ルートの考えを問う。

答 宇土半島区間と八代・天草シーラインの2つのルートが形成されることで、災害時の代替ルートを確保する効果があるとされている。各方面に働きかけていく。

【御所浦恐竜の島博物館について】

問 棚底港緑地駐車場を有料にするための補正予算は不可能か。また、御所浦、棚底両港に案内所設置の計画はないか。

答 ハード面の整備はすぐに対応することが難しい。ソフト面の対応を強化し、必要に応じて駐車場整備の予算も計上したいと考えている。観光案内所設置計画については、ワンストップで案内できるように案内人等の配置について協議を重ねる。

要望 博物館完成はゴールではなくあくまでスタート。全力の支援を望む。



▲御所浦恐竜の島博物館

【魚貫海岸の災害防除事業計画について】

問 牛深クリーンセンター付近の災害防除事業は20数年放置され、通称権炭住宅前は前回の質問で住民の困惑の状況を述べている。今回こそ着工の宣言ができるはずだと信じているが答弁を求む。

答 早急に工事着手ができるよう、要望の方法も検討しながら県に強く要望していく。



入学等祝金支給事業について 中学校部活動地域移行推進事業について 御所浦観光事業について

赤城 史浩 (無会派)



【入学等祝金支給事業について】

問 入学等祝金支給事業を「天草のさりー」で支給しなければならない理由について。

答 子育て世帯に対しての経済的支援とともに広く地域経済の活性化のため。

要望 国や県の補助や助成を活用しながら少ない投資で最大限の費用対効果につながるよう出会い・結婚・妊娠婦などの少子化対策・子育て支援を要望する。

金額単位：千円

地 域	令和4・5年度実績		構成比
	件 数	金 額	
本 渡	116,307	317,429	89.6%
牛 深	6,075	14,562	4.1%
有 明	2,170	4,472	1.3%
御所浦	895	1,750	0.5%
倉 岳	310	650	0.2%
栖 本	1,810	3,493	1.0%
新 和	341	1,701	0.5%
五 和	1,918	5,818	1.6%
天 草	559	1,234	0.3%
河 浦	1,587	3,098	0.9%
計	131,972	354,207	100.0%

▲天草市電子地域通貨「天草のさりー」地区別利用実績

【中学校部活動地域移行推進事業 について】

問 最終的に部活動は学校と切り離していくという認識でいいのか。

答 将来的に部活動は「新たな地域クラブ」へ移行することも検討していく。

要望 現部活動の中には専門性や意思にわからず顧問を務めなければならない先生方がいる。現体制の早期改善を求める。

【御所浦観光事業について】

問 恐竜の島博物館オープンからさまざまな課題が浮き彫りとなったが、段階的に改善していかなければならない。今後に向けた市の考えや対策はどうするのか。

答 地元住民に影響が出ないよう関係機関や部署が一丸となって対策を講じていく。国・県に対しても積極的に支援を求める。

要望 今後も必要に応じて地域の意見を取り入れて対応していただきたい。御所浦観光事業のさらなる発展に期待する。



災害対策について 観光事業について

鯖江 達朗 (天政会)



【災害対策について】

問 茂串・魚貫地区の令和2年7月豪雨に伴う被災後の災害対策状況は。

答 茂串地区では河川改良と河口の排水能力を上げるため、新たに樋門の整備を行った。また、魚貫地区では熊本県により砂防ダムが建設された。



▲茂串地区の小和田川に整備された浮体式ゲート

問 防災マップ津波浸水予想図の見直しを。

答 津波浸水想定区域は法律に基づき県が最大クラスの津波が発生した場合を設定したもので、市独自の設定は考えていない。

問 裏山避難路などの整備状況の確認を。

答 危険箇所などは、里道補修事業や避難路整備等の原材料支給事業を活用し整備していただいている。避難路の現地確認なども要請に応じ対応している。

【観光事業について】

問 自然景観の整備と観光活用について。

答 令和8年に天草地域の国立公園編入70周年を迎えるにあたり自然景観の維持・整備のため樹木の伐採等にかかる予算を増額している。名所の調査・改修をし、観光PRを行う。

問 宿泊施設の減少・不足にてこ入れを。

答 民間宿泊施設の改修補助を2.5倍にし、宿の魅力強化や、スポーツの合宿誘致等を見据え宿泊客の誘客に努める。

問 本渡・牛深港周辺整備事業について。

答 本渡港では港から始まるまちの再生を、牛深港は海業による水産業の向上と商業・観光による地域の活性化を目指す。



天草広域連合新ごみ処理施設整備・ 運営事業の契約解消を受けて

松岡 寿 (政友会)



【ごみ関連施設への影響について】

問 天草広域連合の新ごみ処理施設・運営事業は昨年8月に368億5千万円の契約を締結し事業に着手していたが、事業者が提案した焼却灰の資源化が事実と異なり、本年6月20日に全ての契約を解除した。新たな事業者の決定まで3年程度延びる見込みとなるが、本市ごみ中継施設の整備方針に影響はあるのか。また、延期の影響を受けないごみの拠点回収体制の整備を先行して実施する考えはあるか。

答 ごみ中継施設の整備計画は、今後見直される新ごみ処理施設整備計画に合わせ遅らせる必要があるが、牛深及び御所浦クリーンセンターをごみ中継施設とする方針に変更はない。また、ごみの拠点回収体制の整備については、地域の区長会などと意見交換を行い、可能な限り早期の実現に取り組む。



▲牛深クリーンセンター

【焼却灰の処理の在り方について】

問 焼却灰の資源化は大きなポイントであるが、市長から「新たな最終処分場を天草で整備する方針」が示された。最終処分場は天草圏域に整備した方がよいのか。また、本市に最終処分場を受け入れる用意があるのか。

答 広域連合の計画に焼却灰の自区内処理の原則に基づき最終処分場整備の可能性を検討する方針が掲げられており、資源化が難しい情勢では処分場の検討は避けて通れないものである。今後、天草広域連合の構成市町で協議していく。